大阪カトリック時報
2
2022

発行所
大阪市中央区玉造2-24-22
カトリック大阪大司教区
広報委員会
郵便番号　540-0004
TEL（06）6941-9700（代表）
TEL（06）6946-3223（直通）
FAX（06）6946-3224（直通）
E-mail：jiho@osaka.catholic.jp
編　集　広報委員会
発行人　前田万葉

本紙「点訳版」「音訳」あります。〈無料〉
※ご希望の場合は下記まで申込み
「点訳版（点字本）」
時報☎06・6946・3223（直通）
F06・6946・3224（直通）
「音訳（テープ・デイジー）」
山口さん☎F0798・34・4228

☆正平協大会2021分科会の様子　2面
☆☆住吉教会　堅信式　3面
司牧者から若者たちにこの一冊　4面
☆ラジオ「信仰の時間」　酒井 淳神父　4面
☆☆ユスト高山右近の生涯と信仰㊿　5面
☆生きる―難民移住移動者

広報委員会へのEメールアドレス＝jiho@osaka.catholic.jp

『時報』原稿・資料等の締切は前々月末です。

ユスト高山右近列聖祈願のつどい
〜講演と列聖祈願ミサ〜
2022年２月５日（土）14時〜17時
大阪カテドラル 聖マリア大聖堂
司　　式　前田万葉大司教
共同司式・説教
教皇大使レオ・ボッカルディ大司教

長崎教区に新大司教 中村倫明補佐司教を任命

教皇フランシスコは2021年12月28日、長崎教区のヨセフ髙見三明大司教の退任願いを受理し、後任として、同教区の補佐司教であったペトロ中村倫明司教を新しい大司教として任命した。

着座式の日程
日　時：２月23日（水・祝）10時半
場　所：浦上司教座聖堂

日本カトリック正義と平和全国集会

大阪大会ひらかれる

すべてのいのちの勤労感謝の日

大司教　前田万葉

昨年２０２１年11月22日（月）と23日（火・勤労感謝の祝日）に「日本カトリック正義と平和全国集会・大阪大会２０２１」がコロナ禍の中、オンラインで開催されました（テーマ「すべてのいのちを守ろう」）。大会実行委員長の松浦 謙神父と実行委員会を中心とした良き協力者が集まり、１０００人を超える総参加者を得ました。正直言って、大阪ではシナピス（教区社会活動センター）が無かったらできなかったのではないかと思うほどでした。もちろん、大会に協力してくださった実行委員会はじめすべての皆さまに心から感謝申し上げます。「すべてのいのちの勤労感謝の日」。

30の分科会と2つの特別プログラムのすべてが大切なテーマでした。わたしは第①分科会「あなたへ繋げたい 平和の誓い 憲法９条発案者・幣原喜重郎を伝える」に参加いたしました。それは、長崎の被爆者である母や広島被爆者たちの「戦争反対」「核兵器廃絶」の思いを強く感じていたからです。「原爆ば使うなよりも、戦争そのものばなくしたか」のセリフは、被爆者であった母の言葉でした。そのためにも戦争放棄を誓う憲法９条は何としても守り、未来へ繋げていかなければならない使命だと感じていたからです。「戦争は罪です死です雲の峰」「繰り返しません安らかに雲の峰」「九条は十字架といふ終戦日」などと平和句を詠んで、これまで「非戦運動」を続けてきたつもりです。

今回、地元の発題者・酒井則行さんより門真市出身者である幣原喜重郎（内閣総理大臣、１９４５〜46年）の人柄を知ることができました。また、平和主義者としての幣原が、ダグラス・マッカーサー元帥との密談の中で９条を考案したことも納得いきました。実は２０１９年11月、教皇フランシスコが来日される直前に「憲法９条が考案された場所（某カトリック修道院）に教皇を案内してほしい」という要望書を某氏から受け取った経緯がありました。

また、佐々木宏人著『封印された殉教（下）』（２０１８年）にもマッカーサーとカトリック司祭（特に、メリノール会のアメリカ人パトリック・J・バーン神父、イエズス会のドイツ人ブルーノ・ビッテル神父など）やカトリックの高官（稲畑勝太郎、田中耕太郎など）の名前が出てきます。特に、１８１ページには幣原の名前も出てきます。ＮＨＫ大河ドラマ「青天を衝け（２０２１年）」の最終回にも、渋沢栄一と幣原の密談が出てきました。今後も、もう少し調べてみたいと思っています。

分科会の進行は、実行委員会の奨励どおりのステップ形式で行われ「エマオへの道を復活したイエスとともに歩む」やシノドス（世界司教代表者会議）の「ともに歩む」の精神につながり、大変良かったと思います。「正義と平和」へもつながっていくことを期待いたします。

次面は大会の様子紹介

日本カトリック正義と平和全国集会 大阪大会を終えて

正義と平和協議会
大阪大会 2021

〜 新生計画の実り 〜

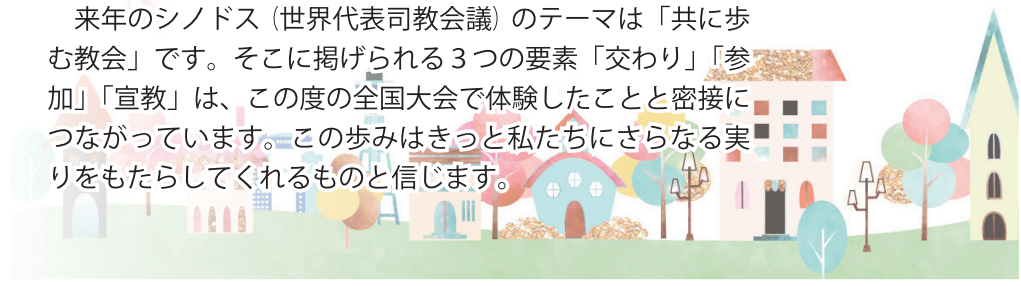
大阪大会実行委員長　松浦 謙

コロナ禍でありながらも、皆さんの協力と祈りのおかげで無事に大会を終えることができました。大阪で大会が開催されるのは３回目です。今回は大阪教区の新生計画「交わり証しする教会」の積み重ねと実践がこのような形で実を結んだと思います。

1995 年の震災の体験が「谷間に置かれた人びとの心を生きる教会」を目指す新生計画の出発点でした。地区・小教区の社会活動委員会がその担い手になって社会の福音化のために働きました。またこの数年、平和旬間行事が各小教区やブロックで繰り広げられてきました。そのような下地が出来ていたためと思います。実行委員会が分科会の募集をしたところ、多岐にわたるテーマの会が考案され、それに多くの方が積極的に申し込んでくださいました。社会正義の問題や平和に対する関心の高さがうかがえました。社会における弱い立場の人、置き去りにされている人へ目を向けることこそがわたしたちキリスト者の生き方であるとの確信がそこにあったと思います。

また新生計画は「聖霊の働きを識別しながら歩む教会」を目指してきました。今回は、社会の現実を直視し、そこに福音の光をあて、気づきを互いに分かち合うことによって私たちの生き方を問い直しました。これは聖霊による識別のプロセスですが、大会はその方法を取り入れることができました。

「交わりの教会を目指す」ことも教区の一貫した目標でしたが、分かち合いはいうまでもなく、障がいのある人への情報保障、カトリック学校の生徒やこども・青年の参画はその成果でしょう。

さらに「信徒の役割」を活かすことが大きな成果を生みました。分科会や祈りの集いにおいて信徒がファシリテーターの役割を果たし、そこに司教・司祭・修道者もふさわしい形で協働しました。またオンラインによる開催ができたのは、それぞれの持っている賜物を活かし合って協力したおかげです。

来年のシノドス（世界代表司教会議）のテーマは「共に歩む教会」です。そこに掲げられる３つの要素「交わり」「参加」「宣教」は、この度の全国大会で体験したことと密接につながっています。この歩みはきっと私たちにさらなる実りをもたらしてくれるものと信じます。